

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 地域高規格道路名豊道路 一般国道23号 蒲郡バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：愛知県豊川市為当町 至：愛知県額田郡幸田町芦谷		延長 15.0km
事業概要 一般国道23号蒲郡バイパスは、愛知県豊川市為当町を起点とし、愛知県額田郡幸田町芦谷に至る延長15.0kmの道路で、名古屋都市圏と豊橋間を結ぶ地域高規格道路の一部区間です。蒲郡バイパスは、国道1号、23号の幹線道路の交通改善、三河港利用の物流交通の効率化、東三河地域の地域振興支援等を目的として事業を推進しています。		
H9、H19年度事業化	H3年度都市計画決定	H15年度用地着手
全体事業費 約965億円		事業進捗率 16%
		供用済延長 0km
計画交通量 37,500台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 644/808 億円 (事業費：605/770 億円) (維持管理費：39/39 億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,746/1,746億円 (走行時間短縮便益：1,437/1,437億円) (走行経費減少便益：141/141 億円) (交通事故減少便益：168/168 億円)
基準年 平成21年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.0(交通量+10%) B/C=2.4(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.5(事業費+10%) B/C=3.0(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.5(事業期間+10%) B/C=2.9(事業期間-10%)		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【約43,453万人時間/年→約43,236万人時間/年 約1%削減】 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 【国道23号：蒲郡市竹谷町前浜(19.2km/h)、蒲郡市竹谷町油井(19.2km/h)】 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する。 【名鉄バス東部：ラゲナ蒲郡線、西蒲豊橋線、西蒲病院循環線、病院丸山線(国道23号利用)】 ・小坂井町から中部国際空港へのアクセス向上が見込まれる。【約113分→約90分】		
②物流効率化の支援 ・西尾市から重要港湾三河港へのアクセス向上が見込まれる。【約92分→約64分】		
③都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。【蒲郡市土地区画整理事業施工中：3地区】		
④国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路の位置づけあり。【名豊道路】 ・日常活動圏の中心都市(幸田町～豊橋市)へのアクセス向上が見込まれる。【約61分→約34分】		
⑤個性ある地域の形成 ・「東三河地方拠点都市地域」基本計画、総合保養地域整備法に基づいた基本構想「三河湾地域リゾート整備構想」を支援する。 ・西尾市からラゲナ蒲郡へのアクセス向上が見込まれる。【約58分→約42分】		
⑥安全で安心できるくらしの確保 ・蒲郡市から豊橋市民病院(三次医療施設)へのアクセス向上が見込まれる。【約27分→約19分】		
⑦災害への備え ・愛知県地域防災計画(平成21年6月策定)において第一次緊急輸送路に位置づけられている。 ・並行する国道1号の代替路を形成する。		
⑧地域環境の保全 ・CO2排出量が約38千t/年(約1%)削減。【13,530千t/年→13,492千t/年】		
⑨生活環境の改善・保全 ・NO2排出量が約7.7t/年(約10%)削減。【76.2t/年→68.5t/年】 ・SPM排出量が約0.5t/年(約10%)削減。【4.1t/年→3.6t/年】		
関係する地方公共団体等の意見 ・10市5町で構成される名豊道路建設推進協議会が未供用区間の早期完了、交通混雑区間の立体化および4車線化を要望。 ・国道23号蒲郡バイパス建設促進協議会が事業促進を要望。 ・県知事の意見： ○対応方針(案)「事業継続」について異議なし。 ○名豊道路は物流の軸であり、国道1号のバイパスとしての整備効果が発揮されるよう、全線の継続的な事業促進を図っていただき、早期の効果発現をお願いしたい。 ○事業実施にあたっては一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。		

事業評価監視委員会の意見
「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
・幹線道路および蒲郡市街地の交通混雑
・三河港の発展
・観光施設の進展

事業の進捗状況、残事業の内容等
・全体事業進捗率は、約16%（平成21年度見込み）
・用地取得率は、約25%（平成21年度見込み）
・東三河IC～蒲郡IC間：L=9.1km 平成19年度に事業化。
・蒲郡IC～幸田芦谷IC間：L=5.9km 用地買収及び改良工事を実施中。

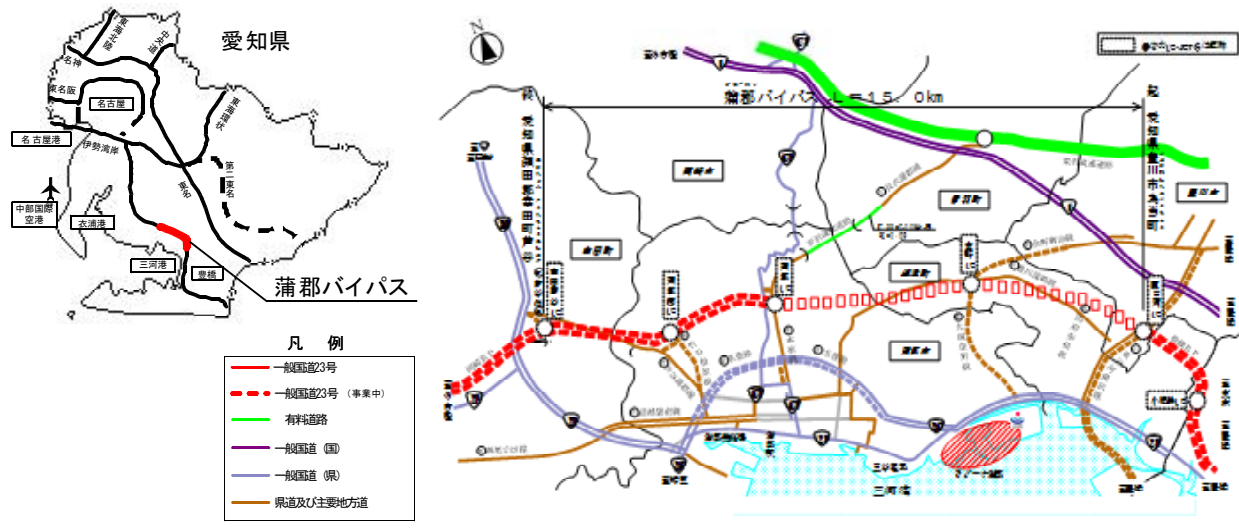
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
東三河IC～蒲郡IC間：L=9.1km、蒲郡IC～幸田芦谷IC間：L=5.9kmについて、暫定2車線供用の早期供用に向けて鋭意事業推進を図る。

施設の構造や工法の変更等
トンネル断面の見直し、水路横断構造の見直し等によりコスト縮減を図る予定。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。